

全労生 2008 年度 第 2 回中央委員会を開催

全国労働組合生産性会議・事務局長（基幹労連・特別役員）

西澤 昇治郎

「雇用の確保・拡大」、「労使の協力・協議」、「成果の公正分配」の生産性三原則を柱とする生産性運動を労働組合の立場から実践するための中核組織として結成された全国労働組合生産性会議（略称：全労生、30産業別労働組合、約500万人）は、10月28日（火）に2008年度第2回中央委員会を開催し、下期活動計画、運営要則の改定および役員交代が確認された。

運営要則の改定では、副部会長の位置付けについて見直し、全労生の役員としておくことができることとした。

役員交代では、副議長の大福真由美氏（電機連合・福祉共済センター理事長）、萩原克彦氏（自動車総連・前事務局長）、野田三七生氏（NTT労働組合・事務局長）の3氏が退任され、後任の副議長には相原康伸氏（自動車総連・事務局長）、長村泰彦氏（電機連合・副委員長）、内藤純朗氏（基幹労連・委員長）、安永貴夫（情報労連・書記長）の4氏が就任された。

また、全労生は2009年に50周年を迎えるにあたり、50周年記念事業を実施することもあわせて確認された。具体的には、2009年6月に、記念シンポジウムとパーティの開催と50周年宣言の発表を行い、さらに、2009年度内には、記念誌の編纂・発行や海外調査も実施する予定であり、広く皆さんの参加を募りたく、宜しくお願いします。

我々は、加盟産別・単組、および各地方労生との相互理解を深めながら、連携を強化し、新体制のもと、引き続き生産性運動の推進に向けた取り組みを展開していきたいと決意を新たにしているところです。引き続き、皆様のご理解とご協力を重ねてお願い致します。